

新型コロナ下での支部活動

初めてのリモート例会

新型コロナ下、3月27日の定例会は添削とリモート例会の併用で行うことにしました。

山口先生に作品の添削をお願いし、かつ、添削の場合でも、他の方々の作品も見たいという強い要望がかねてからありましたので、それをリモートで行うことにし準備を進めました。

リモートの方式はFacebookのmessenger roomを採用（無料、参加人数50人以下、接続時間無制限）しました。

前もって、病氣療養中などの方を除き、支部会員全員と接続試験を実施（必要な方は、webカメラや、イヤホンを準備）しました。

当日12:30ごろからroomを開き、参加者が接続開始し、13時頃から例会を開始しました。

技術担当役員の高橋清氏に講師役をお願いして、1人5点、各自7分目標で7人が終わったところで10分休憩を入れることとしました。

21人そろったところで、画面共有による写真の紹介を始めようとしたのですが、画面共有のボタンが活性化しません。調べたところ、画面共有可能人数が現時点では16人までであることが、判明しましたので、作品提出者を前半後半に分けて10人+α（講師、世話係など）で試みたところ画面共有が可能になり、例会を開始出来ました。

途中入れ替えも含め17時頃に全出品者の講評が無事終わりました。主催者として、回線の接続切れのトラブル発生を心配しておりましたが、その発生はなくほっとしました。

終了後、講師役の高橋さんから全員の講評メモが送られて来ましたので、即全員に送付しました。

参加者からは、PCで見る画像も鮮明で、講師役

の解説の内容も良く、声も良く通り、大変好評でした。また、4日後、リモートのリカバリーも実施しました（1時間強）。

参加者の感想：

淵江さん：高橋さんからの的確で細かい講評、たいへん参考になりました。感染防止の自粛が続いて、昨年よりほとんど撮影に出掛ける事もなくモヤモヤしていましたが、再開の意欲が出る講評会でした。

太田さん：リモート例会での、高橋さんの講評メモ添付して頂きまして、有り難うございました。リモート講評会は、井上さんのお蔭で何とか私でも参加する事が出来、感謝しております。

藤野さん：高橋さん、大変丁寧な講評を有難うございました。他の人のものも含めて、ものすごく、参考になりました。何とか、これからの作品に生かしていきたいと思います。井上さん、リモートの設定、お疲れ様でした。やってみて、良かったと思います。

泉屋さん：高橋さんからいただいた丁寧で、写真を見る目がろくにないわたしにもよくわかる講評をいただき、いたく感激しております。本人もよくわかってなかったところまで見抜いていただき、ものすごく驚くと同時に、自分の写真について目から鱗！でした。上達の見込みが見えた気がして、それがすごく嬉しかったです。

講師の高橋清さんの感想：

「リモート例会の講師役を終えて」
皆さんの作品講評をして思うことは、コンテストではないので、ピント、その他彩度の処理などは置いといて、その人が何を見て感動したか、その感動を鑑賞者に伝えるための画面構成をどうしたか?など、お爺さんなりにアドバイスしました。皆さん、その点では、大変レベルが高く、基礎もしっかりしているので、とても勉強になりました。」

山口先生の添削

山口先生には添削をお願いしました。今回の添削は、リモート用に1000万画素にサイズダウン

した画像を纏めて先生に送っておりましたので、デジタル画像とプリントとの比較よりのプリント指示も詳しくされ、一部の作品は先生にプリントまでしていただきました。丁寧に講評していただき、非常に有益でした。

添削参加者の感想：

須加尾さん：今回は先生からの作品に対する印象や画面構成、フレーミング等のコメントを頂きました。提出したプリントにはトリミングや明るさ等の補正を直接赤ペン記入で指摘があり大変参考になりました。現在のコロナ禍の状況の中では、今回のような作品添削により指導を受けるのも素晴らしい方法と感じました。

野間芳子さん：今回の先生の講評文章の中には、情景・情趣・詩情などの言葉が多く、特に、情景写真という言葉が頭に残りました。写真を見る人の視点を、的確に誘導する画面構成により、「リズム」と「動感」が生まれ、見えてくる情景が変わってくるのが少し理解出来たような気がします。

(文責 井上武夫)

東京支部ホームページ開設までの道のり

ホームページ担当の山田です。東京支部の活動を積極的に外部発信していくことを目的に、独自のホームページを開設いたしました。この度、支部だよりに開設までの道のりを紹介してほしいとの依頼がありましたのでお引き受けしました。

ホームページのコンテンツは支部長に相談し、また顧問の意向も取り入れて決定。1月末には独自ドメインの購入及びレンタルサーバの契約を済ませ準備完了。昔の経験で得た知識で簡単に完成できると思っていましたが甘かったです。知識が古すぎて何から手を付ければよいのか判らず、今の時代は Wordpress というアプリを使用するのが一般的とのこと。至急、入門書2冊を購入しました。

届いた入門書2冊は、お手本並みの作成事例を紹介しているのみ、仕上げたい構成や動作を作成する方法の説明はなし。あまり役に立ちませんでした。

頼みの綱はネット検索。ネットでは実例に沿った解説が豊富に検索できますが、豊富過ぎて構想に合った機能を見極めるのに手間取ったり、説明が英語だったり、試行錯誤の繰り返しでし

た。春までに完成させたいと焦りながら何とか2月末の臨時役員会で完成報告し、役員方々から助言及び承認を得ました。

作成でこだわった点をいくつか紹介します。まずはセキュリティ向上。暗号化しているので通信傍受による情報漏洩のリスクが低減されます。次に SNS 連携。新着情報に表示しているフェイスブック、ツイッター、ライン及びメールのアイコンをクリックすることで作品展のお知らせ等シェアできます。そして、ポップアップ機能。作品展ギャラリーでポップアップした写真の右縁に表示される矢印をクリックすると次の写真に移動します。連続閲覧が可能です。

表紙の写真は皆さんの作品展写真の中から季節ごとに入れ替えます。また、コンテストの入選入賞情報を毎月更新します。事務局を通じて問い合わせしますので御協力をお願いします

(文責 山田智一)

注：コンテンツとは電子的な手段で提供する情報の内容
ドメインとはインターネットの住所

四季のいろ展開催

第7回 日本風景写真協会選抜展 「四季のいろ」展が4/9-4/15 富士フィルムフォトサロン東京にて開催されました。コロナ禍のため1年遅れて蔓延防止宣言のでている中での開催です。東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬支部で分担して当番をつとめました。来場者の記名も受付のほうから特に声をかけない方針で行いました。



さすがに来場者は前回に比べて少なく、会場のカウントでは4834名でいつもの半分だったそうです。すいているのでじっくりと見て行かれる方が多かった印象です。

会員には昨年、素晴らしい写真集が送られて

きているのですが、やはり実物はそれ以上に良かったです。

写真集は予約販売のみでしたが、「俳句の写真」に人気がありました。俳句に詠まれた心象風景をJNPの会員がとらえた写真集です。

英語の解説もついていて外国の方の購入もありました。
(文責 戸張伸子)

私のお気に入り撮影地

コロナウイルス禍での緊急事態宣言、外出を控える等の制約で撮影地は限られてきます。気候も良くなり、本当は県を跨いで遠出でしたい所ですがそれも我慢しなくてはならず、如何すれば、良いかを考えました。

歩いていける所、自転車で行けるところ、車で駐車場が常設している近場の公園巡りで撮影をする事が多くなりました。



「小雨降る妙楽寺」 川崎市観光写真コンクール優秀賞
川崎市妙楽寺

今まで目に入らなかった所も季節の移りゆく変化を感じる事が楽しみとなってきました。これもコロナウイルス禍の違った恩恵かもしれません。マイナスからプラスへの転換で、プラス思考でコロナウイルス禍の終息を待ちたいと思います。



昭和記念公園

元住吉の川沿いの桜

(文責 太田桃子)

写友広場

今年の1月から4月のコンテストに以下の方が入選入賞されました。

★ 川崎市 観光写真コンクール

優秀賞 太田桃子 小雨降る妙楽寺

★ 月刊フォトコン 2021年3月号

入選 高橋清 white shadow

★ 月刊フォトコン 2021年4月号

入選 高橋清 秋翔

★ 209th ペンタックスリコーフォトコンテスト

秀作賞 高橋清 群舞

★ ペンタックスリコーフォトコンテスト

特選 高橋清 歓喜の朝

個展情報

篠原 雅彦さん 個展 「日本の美」

7/22 (木) ~ 8/8 (日) 10:30~18:30

リコーイメージングスクエア東京ギャラリーR

会員のコンテスト入選や個展、風景写真誌、フォトコン掲載などの情報がありましたらお寄せください。自己申告大歓迎です。

(文責 戸張伸子)

事務局より

今後の予定：

もう一つの重要な支部活動である撮影会ですが、「東京の自然を求めて」の日帰り撮影会を撮影会担当の菅澤さんを中心に検討を進めました。結論として「町田薬師池公園」にきまり、実施予定日は6月5日(土)です。

検討候補地：新宿御苑、昭和記念公園、水元公園などの大きな公園および「東京都の指定公園指定地域」である奥多摩自然公園、検原・あきる野自然公園、御岳・日の出自然公園、秋川丘陵自然公園、滝山自然公園、明治の森高尾自然公園、高尾陣馬自然公園、羽村草花丘陵自然公園、多摩丘陵自然公園など。

5月22日の例会ですが、リモートで行う準備を

進めております。今回の講師は山口先生です。
第19回東京支部作品展が11月26日（金）～
12月2日（木）で予定されており、6月に入っ
て作品募集の案内をいたします。作品の準備を
よろしく願いいたします。

（文責：井上武夫）

編集後記

さてコロナの話です。世田谷区はようやく先週
65歳以上に接種券が配布されました。予約の
たいへんさが連日報道されていますのでネット
予約しました。思ったより早く予約できました
が、2か月も先の話です。

皆様の撮影のほうはいかがでしょう？

我が家は緊急事態宣言のおかげで他県への撮影
にも行けず、自宅近くの公園で撮影を楽しんで
おります。

先月の「四季のいろ」展のお当番のときに写真
集の予約販売で「俳句の風景」が人気があり、
我が家にも1冊あるので興味を持ちました。

2018年出版。

コンセプトは「先人に詠まれた言葉だけで表現
する風景に、その意味を壊すことなく添える
日本風景写真協会会員の豊かな感性あふれる
写真との融合」です。

これまで内容が高尚な感じでとっつきにくかつ
たのですが、読んでみるとなかなか面白いです。

「俳句と写真はどちらを先に選ぶのか？」と
素朴な疑問を持ちながら読んでいると、なんと
東京支部の淵江昴喜さんの作品が2点も掲載さ
れていました！ご存じの方もいらっしゃると思
いますが、紹介させていただきます。

「銀杏踏んで しづかに児の 下山かな」
与謝蕪村 の句に
黄葉の銀杏並木と一面の黄色の絨毯の風景
昭和記念公園で撮影

「君が世や 風治まりて 山ねむる」
一茶 の句に
雪の積もった 冬山の静かな風景
新潟県魚沼市で撮影

淵江さんのお話しを伺いました。

2017年に、JNP 入会と同時に東京支部に入会さ
せていただきましたが、その後送られてきました
JNP ニュースに募集記事がありましたので、応募し
てみました。

数百点の古典俳句が、四季ごとに何度か分けて
郵送されてきましたので、作者がどの様な景色を
見て詠んだのかを想像して、自分で撮った写真を
思い出しながら選んで応募しました。

1回目が春夏で、2回目が秋冬の募集でした。

1回目は惨敗でしたが、2回目は2点採用となった
次第です。

初めて「歳時記」をよく読んだ事が印象に残ってい
ます。 以上

今までフォト俳句といってスナップと自作の
俳句を組み合わせたものを見ることはありまし
たが、先人の俳句と風景写真とのコラボという
楽しみ方があるのは素晴らしいと思いました。
俳句は五七五の短い文に 風景写真も1枚の中
に豊かな感性や情感がこめられているのですね。
感性を磨き豊かにすることもレベルアップの秘
訣でしょうか。

我が家はタイトルをつけるのにも毎回夫婦で頭
を悩ませているので、まだまだです。

ワクチン接種がすすみ コロナが終息して自由
に撮影ができる日が早くきますように。

皆様お元気でおすごしく下さい！

（文責 戸張伸子）

